

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370343

研究課題名(和文) 北米及びカリブ海地域におけるツーリズムに対するコロニアリズムの影響と推移

研究課題名(英文) Influence and variations of neocolonialism upon tourism in North America and Carribean Seas

研究代表者

森 有礼 (Mori, Arinori)

中京大学・国際英語学部・教授

研究者番号：50262829

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、北米(アメリカ合衆国およびカナダ)・カリブ海地域の現代ツーリズムに対するネオコロニアリズムの影響と推移を辿るものである。三名の研究者は、各々が研究対象国での現地調査を行った上で、各国地域にみられるこれまでの植民地政策の、文化的・社会的及び政治的影響について文献実証的に確認した。また現代のツーリズムが、こうした植民地政策の影響をいわば歴史的遺産として引き継ぐ形で商業化されていることを確認し、旧宗主国と旧植民地との経済的及び政治的不均衡を再生産するシステムであることを批判的に検証した。

研究成果の概要(英文)：This is a joint research on influences of neocolonialism and its changes in North America and the Carribean Seas. After three researchers have individually conducted on-site investigations their areas of study, they have cooperatively conducted their researches on cultural, social and political aftermaths of colonialism over the ex-colonies. Detail consultation on the literature of the areas have also been done. The researchers have also done critical analyses on the reproduction process of asymmetrical relationship between the ex-suzerains and their colonies in today's commercial tourism, having proved that development of the tourism in the areas of study has been rooted in the past colonial policies and legacies.

研究分野：20世紀アメリカ南部文学

キーワード：ツーリズム イヴ 移動 カナダ アメリカ南部 カリブ海 アンティグア ネオコロニアリズム ロード・ナラテ

### 1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の背景には、ビル・アッシュクロフト他によるポストコロニアル文学・理論のパイオニア的概説書である『ポストコロニアル文学研究』(1989)の2002年刊行の改訂版がある。そこには新たに「エコクリティシズム」についての章が追加されたが、これはポストコロニアル研究における新たな方向性を提示することとなった。具体的には、上掲書の編著者の一人であるヘレン・ティフィンと『ポストコロニアル・エキゾチック』の著者であるグラハム・ハガンが2010年に出版した『ポストコロニアル・エコクリティシズム』で提唱された、ポストコロニアル研究とエコクリティシズムの相互補完的関係の検証、及びその理論的枠組みを敷衍したアンソニー・キャリガン他著の『ポストコロニアル・ツーリズム』(2011)といった概念がそれである。

以上のような近年の研究動向を踏まえて、ポストコロニアル研究とグローバル化との関係を、北アメリカ(カナダ及びアメリカ合衆国)からカリブ海地域(アンティガ、ハイチ)に至るアメリカ圏において、ツーリズムを鍵概念として多面的に検証する必要があるという見解に三名の共同研究者が合意し、そこから広くアメリカとヨーロッパの歴史的関係性とその文化的影響と変容についての研究を企画するに至った。

### 2. 研究の目的

本研究は、中京大学国際英語学部教員のクリストファー・アームストロング、森有礼、杉浦清文の三名による共同研究である。この共同研究者は上記の背景に基づき、以下の目的を達成することを目指す。

(1) 対象地域それぞれにおける、旧宗主国の展開する植民地政策の文化的・社会的及び政治的影響について文献実証的に確認する。

(2) 対象地域それぞれにおける現代のツーリズムが、上記(1)に見られた植民地政策の影響の歴史的遺産として継承されることで商業化されていることを確認する。

(3) 現代の商業主義ツーリズムが、旧宗主国と旧植民地との政治的・経済的不均衡をグローバルに反復再生産するシステムであることを批判的に検証する。

(4) 上記(1)~(3)を通じて、ネオコロニアリズム、コロニアリズム及びネイティヴィズムの批判的分析を試み、ポストコロニアル研究とツーリズム研究との実践的かつ理論的接合を目指す。

なお、三名の共同研究者は、それぞれカナダ、アメリカ南部、カリブ海地域を対象エリアとして、それらを舞台とした小説・散文作品を中心に、「旅行者の眼差し」がどのように作中に表象され、機能し、実際的影響力を行使しているかを分析する。

### 3. 研究の方法

上記の目的達成のために、三名の共同研究者はそれぞれ以下の順序で研究を推進する。

(1) 研究対象国もしくは地域の現地調査を通じ

て、研究対象とする時代の(広義の)植民地的状況を確認する。アームストロングはカナダ東岸部を訪れ、現代におけるカナダの観光資本化の現状を確認する。森はアメリカ南部ミシシッピ州を訪れ、南北戦争終了の南部の歴史の変容について調査する。杉浦はアンティガを訪問し、現代の高度に商業化されたツーリズムの様式と、それを下支える現地の住民の現状とを比較しながら調査する。

(2) 対象地域における植民地政策の文化的・社会的及び政治的影響について文献実証的に確認する。具体的には、研究対象となる文学テキストが、当該研究対象地域や時代における植民地政策をどのように表象し或いは隠蔽しているかを確認し、そこから宗主国と植民地との非対称的な権力構造を読み取る。(3) 現代のツーリズムが、旧宗主国と旧植民地との政治的・経済的不均衡をグローバルに反復再生産するシステムであることを批判的に検証する。この際、単に研究対象地域や時代の現状がコロニアルな権力関係を内包していることを例証するのみでなく、そのような関係を表象し反復再生産するシステムとして、文学テキストの制度性と転倒性についても批判的に議論することで、近代性に資する文学の制度性自体をも再検証する。

こうした実践を進めるために、アームストロングはカナダ文学のテキストとツーリズムが、観光資本形成における商業化戦略のあり方を分析し、文学がネオコロニアリズムに果たす役割を明らかにする。森は路と異界を巡る旅の言説がアメリカ合衆国のナショナル・アイデンティティを形成するバックボーンであることを明らかにし、それがネイティヴィズムに依拠していることを明らかにする。杉浦はアンティガを中心として、奴隷制に代表される支配と搾取の構造が、ネオコロニアリズムにおいていかに人種化されるかを検証しつつ、旧宗主国による旧植民地の経済的再植民化の現実を明らかにする。

(4) 上記(1)~(3)に基づき、各研究対象地域・時代において、(ネオ)コロニアリズムとネイティヴィズムがどのように歴史的に相互規定してきたかを検証することで、現代のツーリズムに対する批判的分析を試み、ポストコロニアル研究とツーリズム研究との実践的かつ理論的接合を目指す。

### 4. 研究成果

以下に本研究の主たる成果を述べる。本研究は大別して(1)ツーリズムにおけるコロニアリズムの影響と推移を地域・時代別に検証したものの(主として2015・2016年度開催の、名古屋大学との国際共同シンポジウムで得た成果)またそのパリエーションとして、(2)制度としての文学との関連で広く旅や移動とナショナル・アイデンティティの問題を考察したもの(主として2014年度日本英文学会中部支部シンポジウムで得た成果)及び(3)そこから派生したネオコロニアリズムとナショナリズムとの関係を分析したもの(主として2014年度の日本英文学会中部支部シンポジウム及び2017年度の日本ア

メロカ文学会中部支部シンポジウムで得た成果)の三つからなる。以降では、5. 主な発表論文等の一覧を参照する形で成果報告を行う。

(1) ツーリズムにおけるコロナリズムの影響と推移を地域・時代別に検証したものとしては、カナダの地域性における移民や棄民の問題を扱ったアームストロングの〔雑誌論文〕、及び〔学会発表〕等、文学テクストを通じたアメリカ南部のパノラマ化・商品化の問題を扱った森の〔雑誌論文〕及び〔学会発表〕、及び〔講演〕、また旧植民地におけるネオコロナリズムの影響とそれに対する抵抗を論じた杉浦の〔学会発表〕、及び〔図書〕等がある。これらを通じて、現代の商業主義ツーリズムが、旧来の宗主国と植民地との関係を構造的に反復しつつ、新たな覇権主義・帝国主義のロジックにおいて運営される経済活動であることが明らかになった。

(2) 制度としての文学との関連で広く旅もしくは移動とナショナル・アイデンティティの問題を考察したものとしては、カナダにおける移動と旅を巡る言説分析を通じて荒野開拓のイメージを論じたアームストロングの〔学会発表〕、アメリカにおける旅が、路上における他者や異界との邂逅を巡るナショナル・ナラティブを形成することを論じた森の〔学会発表〕、及びディアスポラ経験が、自身を疎外された漂泊者として帰郷体験を相対化することを論じた杉浦の〔学会発表〕等がある。これらの研究で、旅行者/漂泊者というアイデンティティが、それ自体アイデンティティ・ポリティクスとして自他の関係を相対化する機能を果たすことが明らかになった。

(3) ネオコロナリズムとナショナリズムとの関係を分析したものとしては、明治期日本におけるカナダ人のオリエンタリズムを批判的に検証したアームストロングの〔学会発表〕、冷戦期の日本とアメリカとの外交関係を分析することで、戦後日本のナショナル・アイデンティティが文化占領を契機として再構成されたことを論じた森の〔学会発表〕及び〔雑誌論文〕、また同時代における日本の引揚者が体験した、自国の中での他者というアイデンティティについて論じた杉浦の〔学会発表〕や〔図書〕等がある。さらには、こうした問題意識から派生して、現代大衆文化における他者表象と中心性/周縁性との関連を論じた〔学会発表〕森及び杉浦等は、ネイティヴィズムが内包する排除と隔離の論理を明らかにする新たな知見を導くもので、研究開始当初には予期していなかった実りある研究成果といえる。

本研究では、海外でも最新の研究課題であるツーリズムとコロナリズムの関連について、北米及びカリブ海地域において新たな知見を提示した。特にネオコロナリズムという参照枠で眺めることでヨーロッパと「新大陸」との歴史的關係が、現在も維持再構築され続けているだけでなく、それが大西洋の両側の地域において相互に必要な不可欠な関係となっており、それがコロナリズムの状況を維持する恒常的なシステ

ムであること、更には文学テクストがこうした表象を再生産することでこうした経済的・文化的非対称性を反復するシステムを担ってきたことを確認できたのは、これまで余人の為し得なかった大きな成果であった。また近年つとに関心を集めているロード・ナラティブ研究の分野に対しても、特に新大陸のナショナル・アイデンティティ形成が移動と他者との邂逅を通じて実践されているのみならず、旅や移動の概念自体が、新大陸における自己規定の根拠であるというイデオロギー的基盤を確立していることを確認できたのは、今後のこの分野における大きな貢献といえよう。また派生的な成果ではあるが、特に日中戦争及び太平洋戦争を背景として、日本と他国(中国・アメリカ)とのポストコロナリズム的關係にも考察を広め、研究の参照枠を大西洋側から広く太平洋の反対側まで拡大することが出来たのも予想外の収穫だった。

今後は、新たにポストコロナリズムにおける自他の定義の基盤を成すネイティヴィズムの批判的再検証をより包括的に展開することが課題として掲げられる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

森有礼、「現代表象文化論 5 「あの戦争」の記憶：『ゴジラ』(1954)における戦争体験と反復強迫」中京大学『国際英語学部紀要』、査読有、19号、2017、1-14

Armstrong, Christopher J., ““A Figment of someone else’s imagination”: English Canada, Canadian Literature and the US Border”, 中京大学『国際英語学部紀要』、査読有、18号、2016、1-18

Armstrong, Christopher J., “Gender, Genre and the Uncanny: A Reading of the Finale Stories in Alice Munro’s *Dear Life*”, 『カナダ文学研究』、査読有、23号、2015

森有礼、「我が心の君」はいずこ：フォークナーのエコロジー、アナクロニズム、そして少女表象」中京大学『国際英語学部紀要』、査読有、17号、2015、1-15

〔学会発表〕(計19件)

Armstrong, Christopher J., “On the Road to Modernity: Automobility in Shebib and

MacLeod” Association of Canadian College and University Teachers of English 60<sup>th</sup> Annual Conference Congress 2017: “The Next 150, On Indigenous Lands.” Ryerson University, Toronto, Ontario, Canada, 2017年5月27日

Armstrong, Christopher J., “A great deal of locality”: The Impressions of Canadian New Woman in Tokio”, 日本アメリカ文学会中部支部第34回支部大会シンポジウム「ふるさとから遠く離れて—『アメリカ』文学における旅と異郷の物語」、愛知大学、2017年4月22日

森有礼、「旅するフォークナー—アメリカの冷戦期文化外交における「戦後」の南部と日本—」、日本アメリカ文学会中部支部第34回大会シンポジウム「ふるさとから遠く離れて—『アメリカ』文学における旅と異郷の物語—」、愛知大学、2017年4月22日

杉浦清文、「『継母語』で書かれた帰郷ノート—Edwidge Danticat の *After the Dance* (2002) を読む—」、日本アメリカ文学会中部支部第34回大会シンポジウム「ふるさとから遠く離れて—『アメリカ』文学における旅と異郷の物語—」、愛知大学、2017年4月22日

Armstrong, Christopher J., “The Ramparts of Quebec: Bridging the Past in Robert LePage’s *Le Confessionnal*”, “Walls” in *Anglo-American Literature and Culture*”, 名古屋大学、2017年3月12日

Mori, Arinori, “What Lies Beneath: American Cultural and Social Trauma in *The Texas Chain Saw Massacre* and *The Cabin in the Wood*”, “Walls” in *Anglo-American Literature and Culture*”, 名古屋大学、2017年3月12日

杉浦清文、「引揚者と(旧)植民地の記憶—森崎和江と「いのち」の思想—」、日本比較文学会中部支部大会シンポジウム、名古屋大学、2016年12月3日

森有礼、「不死者達の明けない夜—カニバリズ

ムと欲動の普遍性—」、日本英文学会中部支部第68回大会シンポジウム「THE DEAD WALK! —ゾンビと映画/文学のクロスオーバー—」、富山大学、2016年10月15日

杉浦清文、「ゾンビ、反復強迫、文学的想像/創造力—Jean Rhys と Edwidge Danticat の場合—」、日本英文学会中部支部第68回大会シンポジウム「THE DEAD WALK! —ゾンビと映画/文学のクロスオーバー—」、富山大学、2016年10月15日

森有礼、「不死者達の明けない夜—食人の文学史—」、科研費基盤(C)「北米及びカリブ海地域におけるツーリズムに対するコロニアリズムの影響と推移」2016年度第2回共同研究発表会「彷徨する不死者たちの旅路—英米及びカリブ海地域におけるゾンビ表象の推移—」、富山駅前いきいき KAN 会議室 B、2016年10月14日

森有礼、「『南部について聞かせてくれよ』—*Absalom, Absalom!*と *Gone with the Wind* における南部の「二度目の死」—」、日本アメリカ文学会中部支部2016年9月例会、中京大学、2016年9月17日

森有礼、「吸血鬼からゾンビへ: アメリカにおける不死者の表象の変遷と矛盾」、科研費基盤(C)「北米及びカリブ海地域におけるツーリズムに対するコロニアリズムの影響と推移」2016年度第1回共同研究発表会「彷徨する不死者たちの旅路—英米及びカリブ海地域におけるゾンビ表象の推移—」、松山大学、2016年9月3日

Armstrong, Christopher J., “Everything that was shared was gone now”: Neoliberalism, Infrastructure and the Ethos of the Commons in Michael Winter’s *Minister Without Portfolio*”, *Atlantic Canada Studies Conference*, マウントアリソン大学 Sackville, New Brunswick, Canada, 2016年5月7日

Armstrong, Christopher J., “Trust and Risk on the Road: Genre, Discourse and Modernity in Lisa Moore’s *Caught*”, *Mobility and North*

American Literature and Culture、名古屋大学、  
2016年3月20日

Mori, Arinori、"Tell about the South": Class, Cultural, and Racial Mobility in *Gone with the Wind* and *Absalom, Absalom!*、Mobility and North American Literature and Culture、名古屋大学、2016年3月20日

Sugiura, Kiyofumi、"Tourism and Neo-colonialism in the Trinidad and Tobago Carnival: A Critical Re-consideration of Vernacular Cosmopolitanism through Earl Lovelace's *The Dragon Can't Dance*"、Mobility and North American Literature and Culture、名古屋大学、2016年3月20日

杉浦清文、「"Krik?" に応答すること—Edwidge Danticat の *Krik? Krak!* に関する一考察—」、日本アメリカ文学会中部支部大会、名城大学 MSAT、2015年4月26日

森有礼、「『悪魔のいけにえ』を観るフォークナー—都市伝説とロード・ナラティヴ—」、日本英文学会中部支部第66回大会シンポジウム「路と異界のアメリカ—ロード・ナラティヴと他者—」、中京大学、2014年10月18日

森有礼、「我が心の君」はいずこ：フォークナーのエコロジー、アナクロニズム、そして少女表象—」、日本英文学会中部支部第66回大会、中京大学、2014年10月18日

〔図書〕(計4件)

森有礼、クリストファー・アームストロング、杉浦清文他、大阪教育図書、『路と異界の英語圏文学』、2018、300(大阪教育出版株式会社と出版契約締結済)

杉浦清文、音羽書房鶴見書店、「カリブ海地域における<新>植民地主義と土着/近代—ジャマイカ・キンケイドの『小さな場所』とステファニー・ブラック監督の映画『ジャマイカ楽園の真実』を再考する—」、梅正行、木村茂雄、武井暁子(編者)伊勢芳夫、木村茂雄、北島義信、武井暁子、山本伸、杉浦清文、梅正行、小杉世、

小野俊太郎(共著)『土着と近代—グローバルの大洋を行く英語圏文学』所収、2015、177-209

杉浦清文、木村茂雄、山田雄三(共著)、英宝社、Beginning Postcolonialism『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバリゼーションへ—』、2015、7-70

杉浦清文、平凡社、「引揚者たちのわりきれない歴史—植民地主義の複雑さに向き合う—」、西川長夫、大野光明、番匠健一(編者)加藤千香子、杉浦清文、西川祐子、沈熙燦、内藤由直、崔博憲、大野光明、番匠健一(執筆者)『戦後史再考—「歴史の裂け目」をとらえる』所収、平凡社、2014、84-99

〔その他〕(計8件)

1. 研究ノート

杉浦清文、「日本人にとってのポストコロニアル文学研究—」、査読有、『黒人研究』No. 86、2017

2. 研究報告

杉浦清文、「日本英文学会 中部支部大会シンポジウム(於富山大学2016年10月15日開催)発表に関する中間報告—」、科研費基盤(C)「北米及びカリブ海地域におけるツーリズムに対するコロナリズムの影響と推移」2016年度第1回共同研究発表会「彷徨する不死者たちの旅路—英米及びカリブ海地域におけるゾンビ表象の推移—」、松山大学、2016年9月3日

3. コーディネーター

Kiyofumi Sugiura、"Walls" in Anglo-American Literature and Culture、2017

森有礼、「北米及びカリブ海地域におけるツーリズムに関するコロナリズムの影響と推移」特別講演・ラウンドテーブル、中京大学、2016年3月23日

4. シンポジウムコメンテーター

森有礼、シンポジウム「20世紀アメリカ文学の新しい古典を読む」コメンテーター2016年度アメリカ文学古典研究会「語りと物語の逍遥

アメリカ古典想像の旅」(亀井俊介特別講演会  
「文学研究と『私』と併催)、中京大学、2016  
年12月3日

#### 5. 講演

杉浦清文、「西川長夫先生と<私>—国際関係  
のなかの<文化>とは」立命館大学国際関係  
学部講演会 於立命館大学国際関係学部  
2014年12月3日

森有礼、「大西洋を渡った屋根裏の狂女: Jane  
Eyre から Daddy-Long-Legs に亘る狂気の表  
象」日本イギリス児童文学会中部支部 2014  
年春の例会 三浦玲一さんを偲ぶ会—児童文学  
とジェンダー—、名古屋大学、2014年6月22  
日

#### 6. 書評

Armstrong, Christopher J., Jane Ledwell  
and Jean Mitchell, eds. *Anne Around the  
World: L. M. Montgomery and Her Classic*.  
Montreal and Kingston: McGill-Queen's  
University Press, 2013、中京大学『国際英語学  
部紀要』、査読有、19号、2017、31-36.

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

森 有礼 (MORI, Arinori)  
中京大学・国際英語学部・教授  
研究者番号: 50262829

##### (2) 研究分担者

アームストロング、クリストファー  
(ARMSTRONG, Christopher J.)  
中京大学・国際英語学部・教授  
研究者番号: 30350979

杉浦 清文 (SUGIURA, Kiyofumi)  
中京大学・国際英語学部・准教授  
研究者番号: 40645751

##### (4) 研究協力者

長畑 明利 (NAGAHATA, Akitoshi)

名古屋大学・国際言語文化研究科・教授  
ガルボ、ジョゼフ (GALBO, Joseph)  
ニュー・ブランズウィック大学・社会科学部・  
准教授

チルトン、マイルズ (CHILTON, Myles)  
日本大学・文理学部・教授

小原 文衛 (KOHARA, Bun-ei)  
金沢大学・人間社会域・准教授

細川 美苗 (HOSOKAWA, Minae)  
松山大学・経営学部・准教授

矢次 綾 (YATSUGI, Aya)  
松山大学・文学部・准教授

杉野 健太郎 (SUGINO, Kentaro)  
信州大学・人文学部・教授

塚田 幸光 (TSUKADA, Yukihiko)  
関西学院大学・法学部・教授

小林 英里 (KOBAYASHI, Eri)  
成蹊大学・文学部・准教授

土屋 陽子 (TSUCHIYA, Yoko)  
愛知文教大学・人文学部・講師

社河内 友里 (SHAKOUCHEI, Yuri)  
豊橋技術科学大学・総合教育院・講師

森岡 隆 (MORIOKA, Takashi)  
和歌山工業高等専門学校・一般教育科・准教  
授

中垣 恒太郎 (NAKAGAKI, Kotaro)  
大東文化大学・経済学部・教授

山口 善成 (YAMAGUCHI, Yoshinari)  
高知県立大学・文化学部・准教授

渡邊 真由美 (WATANABE, Mayumi)  
山形県立米沢女子短期大学・英語英文学科・  
准教授

水口 陽子 (MIZUGUCHI, Yoko)  
豊田工業高等専門学校・一般学科・准教授

亀井 俊介 (KAMEI, Shunsuke)  
東京大学・教養学部・名誉教授、岐阜女子大  
学・文化創造学研究所・教授